



いては、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

今年度のユネスコスクールとしての主な活動は以下の通りである。

- (1) 絶滅危惧種 I A 類 ウシモツゴの飼育と繁殖
- (2) 留学生の受け入れ 男子 1 名 (デンマーク領フェロー諸島)
- (3) 総合的な学習の時間における異文化理解学習 (2 年生対象)
- (4) ユネスコ世界寺子屋運動 書き損じはがきの回収
- (5) フェアトレード活動
- (6) ESD 普及活動 ユネスコスクール・ESD 通信の発行

生物多様性の視点では、昨年に引き続き絶滅危惧 I A 類であるウシモツゴの飼育を継続している。今年度は、卵から稚魚を孵化させることに成功した。孵化したての稚魚は生き餌しか食べないため、手探りでの飼育となった。しかし、試行錯誤を重ねた結果、エビの乾燥卵を孵化させ、与えることが効果的だとわかり、稚魚の多くが順調に育っている。ウシモツゴの育成は科学部が行っているが、同部は 2013 年 12 月に名古屋大学において開催された「高校生 ESD コンソーシアム in 愛知」に今年度も参加し、絶滅危惧種の繁殖についての成果発表を行った。

国際理解という観点では、多角的に活動を行った。今年度はデンマーク領フェロー諸島より留学生を受け入れた。交流する機会が少ないフェロー諸島からの留学生と貴重な交流ができた。また、2 年次の総合的な学習の時間においては、独自教材を用いて、修学旅行で訪れるシンガポール (国内との選択制) についての事前学習を行った。事前学習では訪問国の文化、歴史、日本との関係などを学習した。修学旅行中は、学びと現地での体験をリンクさせることで、国境を越えなければならない体験をすることを重視した。

文化祭ではフェアトレードと世界寺子屋運動という国際協力活動に取り組んだ。フェアトレード活動では、まず JICA 中部を訪問し、世界の経済格差と発展途上国の現状を学んだ。そして、フェアトレードの店から自分たちで商品を選び、文化祭で世界の現状を紹介するとともに、フェアトレード商品の委託販売を行った。世界寺子屋運動では、日本では当たり前な教育を受けることができない子どもが世界中に多くいるという現状を学んだ。そして文化祭では名古屋国際センターにも協力いただき、展示発表と書き損じはがきの回収を行った。

さらに、今年度は ESD 活動の活性化を目標に、ESD 通信を校内外向けに発信した。また、ESD 活動総括・推進インターフェイス連携・調整部会議が中部大学で発足した。学園と連携し、活動にあたった。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（科学部 国際交流部 )